

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

北海道 安平町

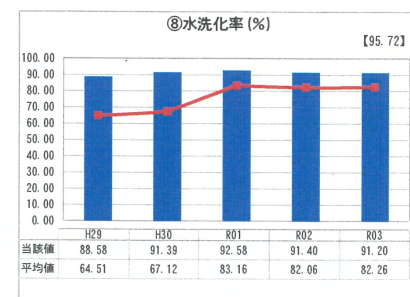
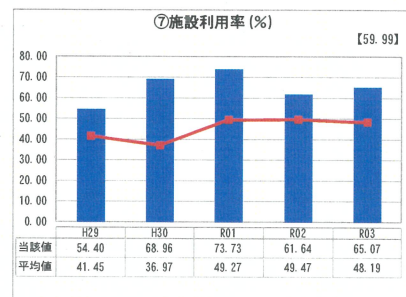
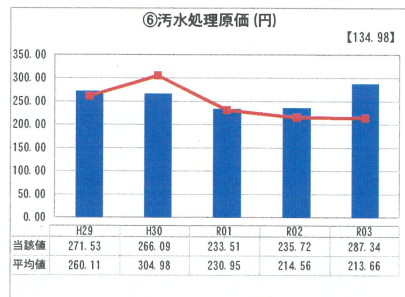
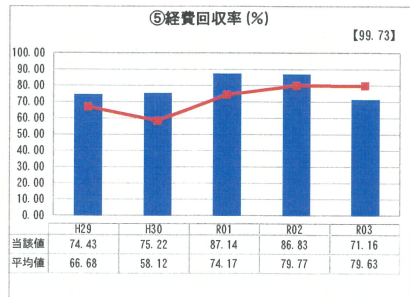
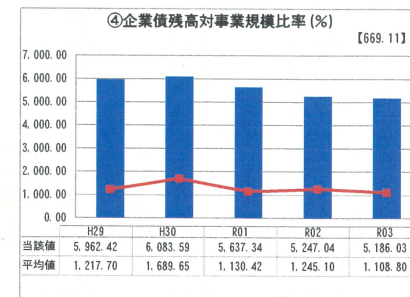
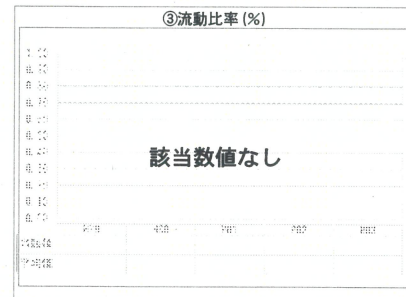
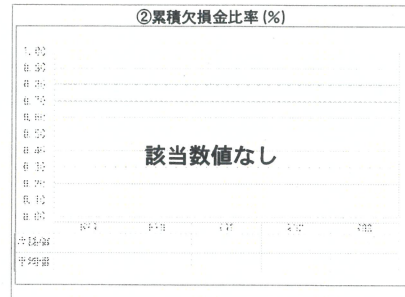
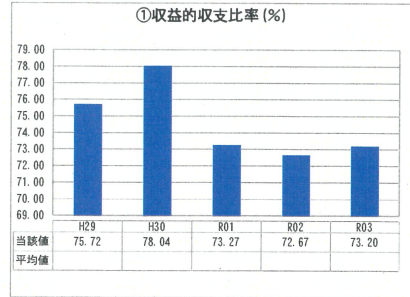
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	43.15	75.78	3,960

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
7,394	237.16	31.18
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
3,172	1.75	1,812.57

## グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

公債費及び下水道施設管理費の増加等により、収益的収支比率が100%を大きく下回っているが、公債費の支払のピークが令和8年度頃と推定しており、また、現在実施しているストックマネジメント事業により施設管理費の抑制が期待されることから、令和9年度頃から上昇傾向が見込まれる。企業債残高対事業規模比率については、しばらく横ばいの傾向が見込まれ、物価高騰等の社会情勢を考慮しながら使用料改定等の検討を行なっていく。経費回収率については100%を下回っているが、その現状を改善するためプロポーザル方式により汚水処理を行なう委託業者を選定し費用削減に努めている。しかし、使用料のみで賄うことは困難なため、不足分は一般会計からの繰入を行ない、安定化を図っていくこととしている。現在、汚水処理の事業運営に係る広域化・共同化計画を検討している。

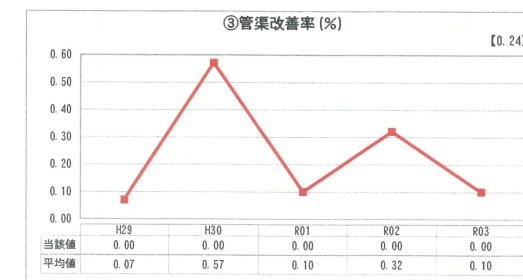
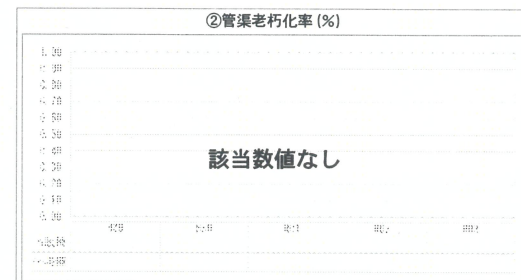
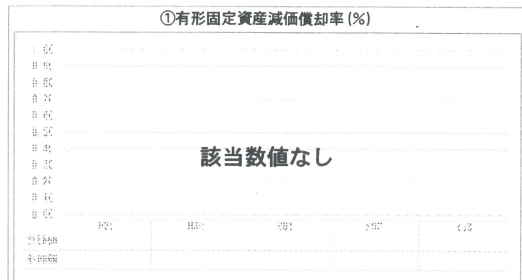
汚水処理原価は、平成30年9月に発生した胆振東部地震の影響で平均値を上回る結果となっているが、包括的民間委託により浄化センターの維持管理経費の節減に努めていることにより、今後は汚水処理原価は少しずつ下降傾向が見込まれる。

水洗化率は横ばい傾向となっているが、令和6年度まで管渠新設工事を実施することからやや上昇傾向が見込まれる。

### 2. 老朽化の状況について

施設等の更新については、平成28年度からストックマネジメント計画の調査・策定を行ない、実施設計を経て令和3年度から更新（改築）工事を実施し、その後も順次行っていく。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

災害復旧工事が令和2年度で完了し、令和3年度から下水道整備事業を本格的に再開し、事業完了は令和6年度を予定している。その後は施設等更新工事が主体となり、ストックマネジメント計画に基づき現在稼働施設の維持管理を行なっていく。また、損益・資産等の的確な把握のため、地方公営企業法の適用による公営企業会計は、令和5年度までに準備を進めて令和6年4月1日から実施することを予定している。なお、平成28年度に策定した下水道事業の経営戦略については、公営企業会計適用業務に伴う精査内容等を踏まえながら令和7年度までに見直しを行なっていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。